

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成26年10月30日(2014.10.30)

【公開番号】特開2013-88757(P2013-88757A)

【公開日】平成25年5月13日(2013.5.13)

【年通号数】公開・登録公報2013-023

【出願番号】特願2011-231645(P2011-231645)

【国際特許分類】

G 02 B 1/11 (2006.01)

【F I】

G 02 B 1/10 A

【手続補正書】

【提出日】平成26年9月12日(2014.9.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

屈折率nを有する物質であり、

光入射面にN個の柱状の凸部を有し、

屈折率1の空間で用いられ、

前記光入射面の表面積をS、前記凸部の底面積をS_m、前記凸部の高さをh_m(mは1以上N以下の自然数、Nは自然数)、前記光入射面に入射する光の波長をλとすると、数式(1)および数式(2)を満たすことを特徴とする反射防止構造体。

【数1】

$$\frac{0.7S(\sqrt{n}-1)}{(n-1)} \leq \sum_{m=1}^N S_m \leq \frac{1.3S(\sqrt{n}-1)}{(n-1)} \dots \dots \dots (1)$$

【数2】

$$\frac{0.7\lambda}{4\sqrt{n}} \leq h_m \leq \frac{1.3\lambda}{4\sqrt{n}} \dots \dots \dots (2)$$

【請求項2】

屈折率nを有する物質であり、

光入射面にN個の柱状の凹部を有し、

屈折率1の空間で用いられ、

前記光入射面の表面積をS、前記凹部の底面積をS_m、前記凹部の高さをh_m(mは1以上N以下の自然数、Nは自然数)、前記光入射面に入射する光の波長をλとすると、数式(1)および数式(2)を満たすことを特徴とする反射防止構造体。

【数3】

$$\frac{0.7S(\sqrt{n}-1)}{(n-1)} \leq \sum_{m=1}^N S_m \leq \frac{1.3S(\sqrt{n}-1)}{(n-1)} \dots \dots \dots (1)$$

【数4】

$$\frac{0.7\lambda}{4\sqrt{n}} \leq h_m \leq \frac{1.3\lambda}{4\sqrt{n}} \dots \dots \dots (2)$$

【請求項3】

屈折率n を有する物質でなり、
光入射面にN個の柱状の凸部を有し、
屈折率n の空間で用いられ、
前記光入射面の表面積をS、前記凸部の底面積をS_m、前記凸部の高さをh_m (mは1以上N以下の自然数、Nは自然数)、前記光入射面に入射する光の波長をλとし、nを1より大きい実数とすると、数式(9)および数式(10)を満たすことを特徴とする反射防止構造体。

【数5】

$$\frac{0.7S(\sqrt{n_{\alpha}n_{\beta}}-n_{\alpha})}{(n_{\beta}-n_{\alpha})} \leq \sum_{m=1}^N S_m \leq \frac{1.3S(\sqrt{n_{\alpha}n_{\beta}}-n_{\alpha})}{(n_{\beta}-n_{\alpha})} \dots \dots \dots (9)$$

【数6】

$$\frac{0.7q\lambda}{4\sqrt{n_{\alpha}n_{\beta}}} \leq h_m \leq \frac{1.3q\lambda}{4\sqrt{n_{\alpha}n_{\beta}}} (qは3以上7以下の奇数) \dots \dots \dots (10)$$

【請求項4】

屈折率n を有する物質でなり、
光入射面にN個の柱状の凹部を有し、
屈折率n の空間で用いられ、
前記光入射面の表面積をS、前記凹部の底面積をS_m、前記凹部の高さをh_m (mは1以上N以下の自然数、Nは自然数)、前記光入射面に入射する光の波長をλとし、nを1より大きい実数とすると、数式(9)および数式(10)を満たすことを特徴とする反射防止構造体。

【数7】

$$\frac{0.7S(\sqrt{n_{\alpha}n_{\beta}}-n_{\alpha})}{(n_{\beta}-n_{\alpha})} \leq \sum_{m=1}^N S_m \leq \frac{1.3S(\sqrt{n_{\alpha}n_{\beta}}-n_{\alpha})}{(n_{\beta}-n_{\alpha})} \dots \dots \dots (9)$$

【数8】

$$\frac{0.7q\lambda}{4\sqrt{n_{\alpha}n_{\beta}}} \leq h_m \leq \frac{1.3q\lambda}{4\sqrt{n_{\alpha}n_{\beta}}} (qは3以上7以下の奇数) \dots \dots \dots (10)$$

【請求項5】

請求項1または請求項3において、
隣り合う前記凸部間の距離Lは、前記波長λよりも小さいことを特徴とする反射防止構造体。

【請求項6】

請求項2または請求項4において、
隣り合う前記凹部間の距離Lは、前記波長λよりも小さいことを特徴とする反射防止構

造体。